

## 乳幼児健康診査受診児の実態調査

小宮 久子(東邦大学医療短期大学)

### I はじめに

公的サービスとしての乳幼児健康診査(以下健診と略す)が、その地域の乳幼児の健全な成長発達のためにどのような役割を果たしているか、また母親の育児上の問題解決のためにどのように援助しているかを知り、今後の望ましい健診のあり方を考える手がかりを得るために、乳幼児健診受診児の実態調査を行った。状況の異なる地域について比較検討したいと考えているが、今回はその一部を報告する。

### II 調査対象および方法

昭和57年4月1日から昭和58年3月31日までに出生し、秋田県大曲保健所角館支所管内の角館町または西木村において実施された乳幼児健診を、少なくとも1回以上受診した児を対象とし、各個人の健康診査票について調査した。

対象児数は角館町 172名、西木村76名、計 248名である。大曲保健所業務概要によると昭和57年の出生数は角館町 171名、西木村71名、計 242名であるが本対象児は年度で調べており、また転出入児が含まれているので出生数とは一致しない。

健診は乳児第1回生後3~4か月、第2回6~7か月、第3回角館町12か月、西木村9~10か月、1才半および3才に行われている。対象児 248

名の受診数は、乳児第1回 211名、第2回 218名、第3回 219名、1才半 222名、3才 245名であり3才以外の受診数が少ないのは、未受診数にその時期に未転入の児を含んでいるためである。

### III 調査結果

#### 1、対象児の家庭的背景

- ①出生順位；第1子 120名、第2子以上 128名。
- ②3才健診時の同胞数；一人子81名(32.7%)同胞数1人 137名(55.2%)、同胞数2人28名(11.3%)
- ③3才健診時の本人を含めた家族数；5人以上の家族が 178名(71.8%)、3~4人家族が68名(27.4%)
- ④祖母の同居有り；180名(72.6%)
- ⑤農業以外の母の職業有り；120名(48.4%)
- ⑥対象児を出産した時の母の年齢；25才~29才が127名(51.2%)で最も多い。

#### 2、健診時の母からの訴えについて

- ①訴え有りの割合；母(またはその他の同伴者)から健診担当者に対して何らかの訴えのあった児の割合は、乳児第1回40.8%、第2回41.7%、第3回41.6%、1才半42.3%とほぼ同様であるが、3才児になると61.2%と多くなっている。
- ②訴えの内容；乳児期には3回の健診とも身体的

疾病・異常についての訴えが最も多い。1回は特に多く68.8%で、内訳をみると湿疹・アトピー性皮膚炎など皮膚に関するものが最も多く、次いで便秘、聴力の心配、眼・耳・鼻の異常などの訴えが多い。疾病・異常以外の訴えとしては、体重増加不良、ミルクを飲まない、物音に敏感すぎるなどがある。第2回は身体的疾病・異常が57.8%出あり、第1回と同様のものに加えて股脱に関するもの、かぜひきやすい、発熱しやすいなどもみられる。食事・栄養についてが17.0%で離乳食指導を希望するものが多い。運動機能発達の遅れを心配したもの9.8%、体重増加不良または肥満について8.4%などがある。第3回には身体的疾病異常に関するもの58.0%で、第1回、第2回と比べると斜頸・股脱についてはみられなくなり歯についての訴えが出てくる。

1才半健診では身体的疾病・異常については30.2%と少なくなり、代わって言語発達の遅れの心配14.8%、多動・落ち着きがないなど社会性・性格などに関するもの15.8%、母乳がやめられない・夜泣きなど養護に関するもの14.8%、指しゃぶり・左利きなど癖に関するもの10.2%など乳児期には少なかった訴えが目立つようになる。

3才児健診になると訴えの数は非常に多くなるが、増加が著しいのは社会性・性格に関する問題で1才半に比べても2倍近い29.9%である。すなわち反抗的・乱暴・母のそばを離れない・自分で出来るのにやってもらいたがる・内弁慶・友達と遊べない・下の子にやきもちをやくなどが訴えられている。身体的疾病・異常については20.9%で皮膚疾患とかぜひきやすいなどが多い。言語発達について10.2%、養護については14.3%で夜間の

おむつがはずせないという訴えが多い。指しゃぶり・爪かみなど癖に関するもの12.2%、小食・偏食など食事・栄養に関するもの9.7%である。

以上述べたように乳児期には身体的疾病・異常についての心配、発育とそれに影響する栄養についての訴えが多く、幼児期になると言語・精神機能の遅れについての心配と、行動範囲が広がり自己主張が強くなって複雑になってきた母子関係にとまどっている母親の悩みが訴えられている。

### 3、健診の結果について

①有所見児数；248名中、いずれかの健診において何らかの所見のあった児は117名(47.1%)である。これには要経過観察、要精査、要治療、他機関管理中のものを含んでいる。ただし当日の一時的なものは除いた。

②健診時期別有所見児の割合；乳児出1回23.7%第2回20.6%、第3回19.2%、1才半15.3%、3才23.3%であり、1才半でやや少ない他は、ほぼ同じ位である。

③健診時期別、初めての所見と前回から継続している所見の割合；乳児第1回はすべて初めてとして第2回61.2%、第3回68.2%、1才半48.4%、3才70.0%である。ただし本人にとっては前から問題になっていても健診としては初めてというものも含まれている。

④所見の内容；乳児第1回に多いのは皮膚疾患、股脱・斜頸の疑い、体重増加不良、肝腫大、心疾患の疑い、ヘルニアなどである。乳児第2回、第3回とも初めての所見は第1回と同様でありさらに運動機能に関する所見が加わる。

1才半では皮膚疾患以外は減少傾向にあるが、言語・精神発達、性格・行動面での所見がみられ

はじめる。

3才になると1才半でみられた傾向がより明かになる。3才健診有所見児は57名で、それ以後もフォローが必要である。皮膚疾患13名、体重少ない10名、言語の問題10名、肥満4名、性格・行動上の問題あり相談室へ紹介したもの3名などである。数は少ないがダウン症候群、発達遅滞など長期的援助が必要な児もある。

#### 4、出生時の異常とその後の経過

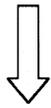
①異常出産21名（帝王切開14名、吸引分娩6名、その他1名）中、3才において言語発達に問題がある児1名

②低体重児7名中、3才において精神発達境界児が1名あった。

#### Ⅳおわりに

以上、結果のあらましを述べたが、さらに母の訴えと健診結果との関係、他機関管理と健診との関係、慢性疾患児や発達遅滞児とのかかわりなどをまとめたいと考えている。

東京都大田区蒲田保健所の対象児約2000名については、現在集計中なので次回に報告したい。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



## 1 はじめに

公的サービスとしての乳幼児健康診査(以下健診と略す)が、その地域の乳幼児の健全な成長発達のためにどのような役割を果たしているか、また母親の育児上の問題解決のためにどのように援助しているかを知り、今後の望ましい健診のあり方を考える手がかりを得るために、乳幼児健診受診児の実態調査を行った。状況の異なる地域について比較検討したいと考えているが、今回はその一部を報告する。